

IoT 推進ラボ IoT 支援委員会（第 2 回）結果概要

1. 日時・場所

日時：平成 28 年 2 月 15 日 13:00~14:30

場所：経済産業省本館地下 2 階講堂

2. 参加者

・委員 25 名中、24 名が参加。

星野経済産業大臣政務官、安藤商務情報政策局長 他

・傍聴 約 260 人

3. 概要

・冒頭、座長および経済産業省から、IoT 推進ラボの活動報告について説明し、今後の活動方針について議論。

・各委員から出された主な意見等は以下のとおり。

【今後の活動事項全般について】

○スピード感を持って第一弾の活動を実施し、一定の成果が得られたものと評価。今後、しっかり評価軸を定めて支援・フォローアップしていくことが大事。

○IoT に関する日本のナショナルアジェンダを明確に打ち出すべき。例えば、ドイツのインダストリー 4.0 は製造業中心の話だが、日本として少子高齢化や地方創生など社会課題解決を目的にするなど、位置付けを明確にすべき。総合科学技術・イノベーション会議では同様の趣旨で超スマート社会、Society5.0 が提案されている。海外への説明、外資系企業の巻き込みという観点からも重要。

○IoT 推進ラボの取組や成果について、告知の仕方が断片的であるため、全体像をあらかじめ告知し、参加すべき企業が参加できるようにすべき。

○IoT は尖った技術の勝負ではなく、ビジネスモデルの勝負。実証実験よりもビジネス化することが重要。そのための場として、例えば、IoT City をつくってみてはどうか。地域を限定し、大胆に規制を緩和し、世界中の人・物・金を呼び込み、成果を共有する枠組みができるとよい。

○IoTソリューションの開発・販売のみならず、例えば、IoT機器等の導入における減税制度など、日本でIoTソリューションを購入し、ビジネスを進める者を応援する仕組みがあってもよいのではないか。

【IoT Lab Selection (先進的IoTプロジェクト選考会議) について】

○プロジェクトの選定について、グローバルに見た際のレベルの高さ(技術的、ビジネス的)という観点からも評価すべき。そのため、海外のVCとも連携して進めるべき。

○IoTは、分野を超えた挑戦に意味があるが、ベンチャー企業等にとっては、規制のみならず業界固有の商慣習などもハードルになる。こうした点もサポートが必要。

○大企業、グローバル企業の参画を促す方策として、例えば、一定のプロジェクトを政府が採用するなど、政府として何らかのコミットメントをしていくことが重要。

○今回、申請書類の準備が大変だったという声がある。若い人が積極的に参加できていない点について、彼らの目線に立って今後の実施方法を検討すべき。

○IoT推進ラボとして直接実施するのではなく、お墨付きを与える形で選定プロセスを委任していく方が透明性向上にも資するのではないか。

○先進的IoTプロジェクト選考会議について、クローズドにしたい気持ちは理解できるが、公的支援を行う以上、引き続きオープンな形で進めるべき。

【IoT Lab Connection (ソリューション・マッチング) について】

○今後のコネクションの進め方として、技術的アドバイザーを付けてみてはどうか。ある業界固有の技術について、他業界への活用事例や、技術のレベル感(実装可能なのか、FS段階なのか)をアドバイザーにサポートしてもらえる方が効率的。また、産学官の学も参加させて、学生の新しい発想も取り込むべき。

○バーチャルな形でのマッチングを実施してみても面白いのではないか。グ

グローバル企業も参加しやすいメリットもある。

【IoT Lab Connection（ビッグデータ分析コンテスト）について】

- 企業からデータを提供させるには、企業側のメリットを具体化していくことが重要。国が企業や所管団体等に依頼するなど、経産省のあらゆるツールを使って、データの提供を依頼し、それからテーマを設定してみてもどうか。
- 表彰のみならず、受賞者の技術的な話を聞けるワークショップのようなものも取り組んでいただきたい。

【グローバル展開／地方展開について】

- グローバル展開について、人材のアベイラビリティ、政府による支援の有無が議論となることが多い。そうした視点も重要。
- 地方展開については、エコシステムがある程度できている地域を選び、意欲が有り積極的に活動している地域を応援する形で効率的に進めるべき。

【IoT 関係実証予算について】

- 予算プロジェクトの担当性は賛成。政府サイドの説明責任のみならず、各委員にも責任をもってもらって観点から有効。
- 各省庁で似たような事業を実施している印象がある。政府一丸となって取り組んでいただきたい。